



京大広報

No. 598

2005. 2

目次

〈大学の動き〉

「理系基礎教育・実験教育」ワークショップを開催……………1838

博士学位授与式……………1838

平成17年度入学者選抜学力試験
(第2次学力検査等)の実施日程……………1839

平成17年度入学者選抜学力試験
(第2次学力検査等)の志願状況……………1840

平成17年度概算要求内示概要……………1842

〈部局の動き〉

寄附講座「免疫ゲノム医学講座」の設置……………1843

森・里・海の再生教育に関するフィールド研と
全日空の連携

一大空に舞う森里海連環学……………1843

エネルギー系21世紀COEプログラムと
タイ王国連合大学院大学・関係協力大学との

合同による「持続可能なエネルギーと環境
(SEE)に関する国際会議」を開催……………1844

エネルギー理工学研究所が「量子光・加速粒子
総合工学研究棟」を開所……………1845

第4回京都大学COE「元素科学」国際シンポ
ジウム(兼第2回元素科学国際研究センター

国際シンポジウム)を開催……………1845

〈寸言〉

バーミヤーンの大佛像の再建はなるか
岩崎好規……………1846

〈随想〉

現代確率論の発展を振り返って
名誉教授 渡辺信三……………1847

〈洛書〉

フィールドワークのアップデート
杉島敬志……………1848

〈栄誉〉

林 巳奈夫名誉教授、奥田昌道名誉教授が
日本学士院会員に選ばれる……………1849

中川久定名誉教授がフランス共和国レジオン・
ドヌール勲章シュバリエ級を受章……………1850

〈資料〉

平成16年総長裁量経費による研究課題……………1851

〈話題〉

京都大学未来フォーラム
(第8回、第9回)を開催……………1852

〈計報〉

……………1853

〈日誌〉

……………1855

〈お知らせ〉

河上肇記念シンポジウムと講演……………1855
高等教育研究開発推進センター・
第11回大学教育研究フォーラム……………1856

〈編集後記〉

……………1856



「理系基礎教育・実験教育」ワークショップを開催
—関連記事 本文1838 ページ—

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

部局の動き

寄附講座「免疫ゲノム医学講座」の設置

4月1日から、大学院医学研究科に寄附講座「免疫ゲノム医学講座」が設置されることになった。

その概要は、下記のとおりである。

- 1 部 局 名 大学院医学研究科
- 2 名 称 免疫ゲノム医学講座
- 3 寄 附 者 小野薬品工業株式会社
- 4 寄附金額 総額 2億5千万円（分割納付）
- 5 設置期間 平成17年4月1日～
平成22年3月31日
- 6 担当教員 教授相当 本庶 佑
講師相当 長岡 仁
講師相当 新藏礼子
- 7 研究目的 免疫系における遺伝子変異機構とその制御についての基礎研究ならびに免疫系制御因子を用いた各種疾病の新しい治療法の研究を行う。
- 8 研究内容 免疫細胞生物学、ゲノム医学研究セ

ンター、血液内科、移植免疫学、臨床免疫学ならびに臨床各科の腫瘍治療プロジェクトと連携して、免疫ゲノム医学の基礎的な研究を行うと同時に、免疫制御物資の臨床応用を目指した免疫ゲノム医学研究の中心的内容について大学院レベルの教育を行う。

- 9 研究課題
 - ・免疫を特徴づける遺伝子変異に基づいた抗体遺伝子多様化機構の解明
 - ・免疫系の負の制御因子PD-1に関する研究
 - ・分子レベルでの免疫応答の制御、抗体の多様化機構、サイトカインの機能ならびにゲノムの不安定化に関する基礎研究

森・里・海の再生教育に関するフィールド研と全日空の連携 一大空に舞う森里海連環学一

フィールド科学教育研究センター（フィールド研）は、21世紀型の新たな統合学問領域「森里海連環学」を提唱し、平成15年4月より全学共同利用施設としてフィールドベースの全学共通教育や研究を展開している。地球生命体の循環系や免疫系としての森と里（川）と海のつながりの再生には、つながりの科学としての森里海連環学の創生とともに、すでに世論を動かし始めている森と海を一体の存在としてとらえる社会的運動との効果的な連携が不可欠と考えられる。こうした考えの下に、平成16年6月～8月に総合博物館春季企画展「森と里と海のつながりー京大フィールド研の挑戦」を行い、7月には時計台百周年記念ホールにおいて対話集会「森と里と海のつながりー“心に森”を築く」を開催し、新しい科学の誕生とその社会的意義を広く市民に訴えた。

これらの取り組みを通じて、大学がどのように社会に開かれた存在として脱皮するかに注目している団体や個人から様々な反響が寄せられ、その一つが



今日のフィールド研と全日本空輸株式会社（ANA）の間で「森・里・海の環境再生教育に関する合意書」の締結として具体化した。ANAは環境・社会貢献部が中心となって、全国の関連空港近隣に10年計画の森づくりを進め、「私の青空・森づくり」運動を昨年より展開している。この催しの青空教室にフィールド研の教員が講師として招かれていたことがきっかけとなり、今後より多様な共同事業を実施するために、組織としての調印を行うこと

となった。主な合意内容は、1) フィールド研はANAの森づくりに協力し、青空塾を開講する、2) ANAはフィールド研が全国に持つ施設の開放を支援する、3) 両者は共同でエコツアー（フィールドツアー）を企画開発する、4) ANAはフィールド研が進める森里海連環学に関する市民参加型研究を支援する、の4点である。

フィールド研として、この合意書の締結に当たり特に期待していることは、日本の自然から発想した地球環境問題解決のブレークスルーになり得る森里海連環学を世界に発信したいとの思いと展望は、世界へ翼を広げるANAのイメージや展開と共鳴し、新たな連携効果が期待できる点である。同時に、森里海の連環やそれらの分断は空から見れば一目瞭然であり、今後ANAの空のエキスパートの皆さんの

協力を得て、市民参加型研究を空と地上の両面から進められることを期待している。フィールド研は、平成17年より本格的に和歌山県熊野の森－古座川－串本湾をモデルフィールドにした「古座川プロジェクト」を展開しようとしている。全学共通教育、市民教育、連環学研究、古座川町等との地域連携等を包含した統合型プロジェクトの展開に、このANAとの連携は大きな役割を果たすものと思われる。これらの主要な取り組みは、90万部近く発行されているANA機内誌に掲載され、そこから新たな環の広がりが期待される。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.fserec.kais.kyoto-u.ac.jp/>

（フィールド科学教育研究センター）

エネルギー系21世紀 COE プログラムとタイ王国連合大学院大学・関係協力大学との合同による「持続可能なエネルギーと環境（SEE）に関する国際会議」を開催

平成16年12月1日～3日の間、タイ王国のホアフィンにて「持続可能なエネルギーと環境（SEE：Sustainable Energy and Environment）に関する国際会議」が開催された。この国際会議は、日本側の本学のエネルギー系21世紀COEプログラム「環境調和型エネルギーの研究拠点形成」の構成部局であるエネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所とタイ王国側の連合大学院大学・関係協力大学との合同によって実施された。また本会議は、アジア環太平洋地域のエネルギー安全保障および環境の改善に貢献するために持続可能なエネルギーとその関連最先端技術の状況を国際的な見地から総合的に討議し、地域全体のエネルギー・環境分野での国際的な研究連携を図ることを目的として開催された。



辻副学長の基調講演

開催初日の基調講演において、日本側からは辻文三副学長が本学の教育・研究の取り組み状況を紹介するとともに、エネルギー系21世紀COEプログラムについて講演を行った。その後、タイ王国エネルギー省のプロミン・レルツリディエ大臣がタイ王国のエネルギー戦略と地域協力の機会についての講演のなかで、日本側の代表機関である本学とタイ王国の連合大学院大学他関係協力大学との今後の国際的な研究協力の促進に期待が寄せられた。その後、4会議場に分かれ各セッションが実施され3日間におよぶ活発な研究討議の後、日タイのエネルギー・環境分野での一層の研究協力体制を構築することの重要性が確認された。

（エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所）



開会宣言（SEE組織委員長）